



DBKだより

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2012年7月20日 第9号

発行人:チブリアニ・アルド

恩人の皆様

いつも物心両面の寛大なご支援をありがとうございます。二〇一一年度の決算書とともにDBKだよりをお送りします。今回は、『ドン・ボスコの風』を同封致します。どうぞお読みください。

この一年は世界各国においても日本においても、多くの出来事がありました。世界のさまざまな地で頻発する武力紛争、深刻化する社会問題、政治は解決策を見いだせず、多くの人はますます苦しい生活を強いられています。同時に、善意の人々により、たくさんの良いことも行われています。

私の執務室には、私にとって宝物である二枚の写真があります。一枚はマザー・テレサと写っているもの、もう一枚はヨハネ・パウロ二世と一緒に写っているものです。この二枚の写真は、私にとって神の祝福のしるしです。私たちの時代への神様の贈りものと言える二人の聖

者と出会えたことに感謝しています。二人とも教会によって福者に列せられました。つまり二人は、私たちの人生の師であり、同時に神からの恵みのとりなしを願うことのできる存在だということです。

「キリストに、心の扉を大きく開きなさい」。これは、一九七八年に教皇となったヨハネ・パウロ二世が世界に語りかけた第一声でした。「キリストに心を聞く」ということは、すべての人を神の子、私たちの兄弟として認めることです。

マザー・テレサもまた「兄弟として」の責任を生きるよう私たちを助けてくれます。「隣人」と平和のうちに生き、必要があれば手を広げて助けるためです。マザー・テレサが私たちに残した美しい言葉があります。その祈りは歌になっています。

「主よ、今日一日、貧しい人や病んでいる人々を助けるために……私の手、私の足、私の声、私の心が必要でしたら、どうぞお使いください」

人を助ける方法はいろいろあります。「DBKだより」を出しますと、寄付をしなければと負担に感じる方がいらっしゃるかもしれません。皆さん、どうかその点で心配なさらないでください。私たちはいろいろな形で「兄弟」になれます。それを表す最良の方法の一つは、困っている人々のために祈ることです。またその人々を直接助けることのできる人や、「財布」に余裕のある人を神が照らし導き、寛大な心を与えてくださるよう祈ることです。

皆さんの寛大なお心を通して助けられた人々に代わって、「ありがとうございます」と申し上げます。そして皆さんのため、皆さんのご家族や大切な方々のために、私たちの祈りを約束します。神様の祝福が皆さんの上にありますように。

二〇一二年七月二十日
代表
チブリアニ・アルド神父

南スーダン

「二〇〇校プロジェクト」

— 続き —

前回のDBKだよりでご紹介したドナティ神父より手紙が届きました。DBKとして今年、スーダンのプロジェクトに力を入れて支援したいと思います。

その夜、ひっきりなしに鳴る電話の音で起こされました。

「もしもし、どなたですか?」

「ジムです。今、ダルフルからです。」

ジム・コミーノ修士の声です。

「避難民のために、食糧や毛布、テントをトラックに積んでいくところなんだけど、逃げまどう人で混乱状態だ。道はふさがっている。ほかのトラックも立ち往生している。積荷を盗もうと襲いかかってくる子どもたちでいっぱいなんだ。この少年たちを五十人くらい技術訓練校に連れて行くほうが救済物資を彼らに届けるよりずっと楽だと思う。」

「それもいい考えだが、どこに泊めるんだ? まずトラックの荷を降ろし、帰ってきてくれ。それから話し合おう。」

ダルフルの戦争は八年前に始まりました。スーダン南西部のダルフルの人々は、スーダン中・北部の人々とは違い、アラブ人ではありません。今はアラビア語も話し、イスラム教徒ですが、自分たちの民族に誇りをもっています。

石油の発見は経済バブルをもたらし、首都カルトウムは舗装道路や高層ビルが建設され、すっかり変貌をとげました。しかし、発展の利益を得たのはカルトウムとその周辺地域の人々だけで、取り残されたほかの地方は顧みられることなく、学校も病院も、コミュニケーション網も欠乏しています。

長年の内戦で南部の諸部族と戦った政府軍の兵士の多くはダルフル出身者でした。発展から取り残された人々の不満は大きく、ニヤラ空港の軍用機に火がつけられ燃やされた事件をきっかけに、



反乱が広がりました。

政府はすぐにダルフル全土に對して報復攻撃を行い、その戦争が今も続いています。二百万人が難民キャンプに居住し、十万人が命を落としました。問題解決と和解は遠い先のように思われます。

ジム修士は肩を落とし、暗い顔で帰ってきました。私たちは話し合いました。問題は、学校に新たな生徒を受け入れる寮がないということでした。暗闇の中で手探りをするような状態でした。突然、ジムがひらめきました。「大きな家を借りて生徒たちを住ませよう。」（一夫多妻のお金持ちの大家族の多くが首都に移ってしまい、大きな空き家を借りるのは簡単でした。）

最初に受け入れたグループは、難民キャンプからの六十人ほどの少年たちでした。エル・オベイド（ダルフルから六〇〇キロの町）の技術訓練センターに少年たちが受け入れられたという噂が広まり、翌年、一〇〇人の募集に対し数百人の少年たちがエル・オベイド行きの列車に乗りつと集まりました。大勢の母親たちも息子を連れて一緒に出発しようとしてやって来ました。警察の厳しい検問で証明書

を持った一〇〇人の少年だけが古いくたびれた列車に乗り込むことができます。

列車が走り始めて三十分ほどたったころ、座席の下に隠れていた少年たちが一人、二人と出てきました。全部で十七人。引率の先生はすっかり興奮した様子で電話をかけてきました。

「何があったの? 病人が出た?」

「いいえ、神父様。一〇〇人のはずでしたが、一〇〇人と、十七人になりました! すみません、神父様。」

「あやまらないで。私は喜んでいるよ! 子どもが多いほど幸せも大きい。」

十七人のためにも場所を見つけよう。

そして今……ドン・ボスコ技術訓練校は、寮や台所、作業所のある学校になっています。生徒たちは自動車機械、電気、建築、木工、溶接、配管を学んでいます。コースの期間は一年で、できるだけ早く仕事に就けるよう、修了時に生徒たちは道具箱をもらいます。生徒の多くはイスラム教徒ですが、毎年、南部からダルフルへの移民の生徒五十〜八十人がいて、彼らはほとんどキリスト教徒です。生

徒たちは皆、一つの大きな家族のよう、違いも差別もありません。

残念ながら部族同士の抗争もあり、戦争は続いています。アフリカはアジア、ヨーロッパ、アメリカの大企業に略奪され、大きな災いに瀕しています。アフリカが受けている多くの緊急支援は、命は救っても、社会の発展をもたらしません。アフリカの人々の大多数が今も読み書きができません。長期的な発展を草の根レベルで進めるには、教育、学校が必要です。

南スーダンが独立した今、私たちサレジオ会は小学校を一〇〇校建設する計画を立てました。一人の修道士と八十四歳の私がこのプロジェクトの担当になり、神様の助け、そして多くの人の助けに希望を置いています。

ボランティアが必要です。インド、スロバキア、ベトナム、韓国、イタリア、ドイツから来てくれています。もっと必要です。今年、ワウ市の技術訓練校に一人の日本人ボランティアがやって来ました。彼は大きな熱意と愛情をもってストリート・チルドレンのために働いています。

南スーダンより皆さんに心からのあいさつを送ります。そして皆さんのご多幸をお祈りしています。

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2011年度決算書

(2011年4月1日～2012年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,614,584	寄付金支出	19,301,600
寄付金収入	18,620,507	#内訳	
#内訳(意向先別)		ハイチ地震(ローマ本部経由、\$2万)	1,658,000
1任意(DBKに委託)	11,108,753	ボリビア(\$69,963.81+20万円)	6,100,000
2ボリビア	5,957,989	ペルー-CSG	798,000
3南スーダン	1,120,950	ソロモン	1,080,000
4ペルー	221,935	モンゴル小学校建設(\$1万)	800,000
5アルゼンチン	150,000	FMAボリビア	500,000
6ソロモン	60,880	アルゼンチンCSG(\$4万)	3,274,000
		南スーダン(ローマ本部経由、\$2万)	1,658,000
		ガーナ(就学支援、EUR2万)	2,233,600
		ケニヤ	200,000
		東チモール	1,000,000
		CSG: イエスのカリタス修道女会	
		FMA: サレジオ・シスターズ	
		事務経費	73,363
受取利息収入	423	#内訳	
		送金手数料	35,813
		通信費	37,550
		合計	19,374,963
		次年度繰越金	860,551
		#内訳	
		振替口座	504,630
		ゆうちょ銀行	355,921
		現金	0
収入の部合計	20,235,514	支出の部合計	20,235,514

監査報告書

発展途上国援助・ドンボスコ基金の2011年度会計は
収入・支出とも公正かつ適切に行われたものと認めます。

2012年6月14日

発展途上国援助・ドンボスコ基金

監事 渡辺 新



監事 リチャード・スミス



ボリビアより DBKの皆さまへ

ボリビアのサンタ・クルスより、DBKの寛大なご支援をくださる皆さまに、心から感謝を申し上げます。

私が働いているボリビアの国は、日本では想像できない、さまざまな現実があります。そのひとつが貧困です。三十二年前に、この地ボリビアに来てから今日まで、この悲しい現実には改善されていません。新聞も毎日、人々の苦しみを伝えていきます。街のいたる所に、物乞いをする人の姿が見られます。幼い子ども、少年、大人、老人、盲人、足のない気の毒な車椅子の老人など、本当に苦しんでいる人々がたくさんいます。七十億の人が地球上に住んでいると言われていますが、私たちが

が貧しい国、貧しい人々と言うときは、一日一ドル以下の生活をしている場合だそうです。そして十四億以上の人々が一日一ドル以下で生活していると言われています。

ボリビアを例にしますと、公立学校、養護施設の校長、施設長の月給が二〇〇ドル、平均家庭は七人ですから、一日一人一ドルの生活となり、貧困家庭となります。今年の六月十二日付のサンタ・クルス最大の新聞「デ・ベール」紙も次の現実を伝えています。「六月十二日は、国際未成年労働反対の日です。ボリビアでは四十五%の少年少女が日曜日から日曜日まで働いている」。同じく昨年八月三日付では「ボリビア国内では八四八、〇〇〇人の少年少女が働いている。そのうち六十四%の子どもが農場で働いており、一、二七二人の子どもが危険な仕事に就いている」と伝えていきます。ボリビアの人口が約八〇〇万人ですから、その十%を占める少年少女が、

十分な教育も受けられず、働いている痛ましい現実があるのです。

このような



で、ボリビアのサレジオ会員は、皆さまの温かいご支援を受けて、本当にすばらしい福祉事業をしています。多くの親のない気の毒な子どもたちのための養護施設、保育園、また学校のない貧しい地域に小学校、中学校を建設するなど、そしてまた毎月のお米を届ける愛の業……。

改めて、皆さまの継続的なご支援に感謝いたします。

神さま、聖母マリアさまが、皆さまの寛大なお心に豊かに報いてくださいますように。

ボリビア、サンタ・クルス

倉橋輝信神父

DBK だより 第9号

2012年7月20日

発行人:チプリアニ・アルド
発行所:サレジオ管区本部
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190
dbk-gia@donboscojp.org

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号

00100-4-560725

加入者名

発展途上国援助・ドンボスコ基金

